

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学実習 I		実習	嘉納 綾・中田 修・石橋保子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
全身の骨と筋、関節の構造と機能を理解し、患者の運動や動作を理解する上での基礎学力の習得を目指す。骨格標本や視聴覚教材を用いて立体的に理解できるように授業を進める。学んだ内容について分野ごとに口頭試問を実施し理解度の確認を行うことで、実践的な知識の習得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 上肢の骨・関節・靭帯を説明できる 2. 上肢の筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる 3. 腕神経叢・手の変形について説明できる 4. 下肢の骨・筋・関節の構造と機能を説明できる 5. 下肢の筋の起始・停止・作用・支配神経を説明できる 6. 異常歩行について説明できる 7. 体幹の骨部位の名称を説明できる 8. 体幹の関節の構造と機能が説明できる 9. 体幹の筋の起始・停止・作用・神経支配が説明できる 10. 呼吸運動の仕組みと筋について説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	石橋担当；体幹（1）骨の形態と骨部位の名称、関節の構造と機能			
2	体幹（2）筋の起始・停止と作用			
3	体幹（3）神経支配、呼吸運動の仕組みと筋			
4	嘉納担当；上肢（1）骨の構造と骨部位の名称			
5	上肢（2）関節の構造と機能			
6	上肢（3）骨・関節のまとめと口頭試問、筋の起始・停止			
7	上肢（4）筋の起始・停止・走行			
8	上肢（5）筋の作用と神経支配、手の変形			
9	上肢（6）まとめと口頭試問			
10	中田担当；下肢（1）骨の構造と機能			
11	下肢（2）関節の構造と機能			
12	下肢（3）まとめと口頭試問			
13	下肢（4）筋の構造と機能			
14	下肢（5）筋の作用			
15	下肢（6）まとめと口頭試問			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	25%	授業の理解度を評価する。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他	75%	上肢・下肢・体幹の1分野ごとに口頭試問を行う。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第4版	野村 巖 編	医学書院		
分冊解剖学アトラス I 運動器 第6版	平田幸男 訳	文光堂		
基礎運動学 第6版補訂	中村隆一 他	医歯薬出版		
新・徒手筋力検査法 原著第9版	津山直一 他訳	協同医書		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
上肢と下肢は2グループに分かれて交互に受講する。課題を出すので、必ず予習をしてくること。				